要旨
2022 年 1 月

従来型介護老人福祉施設における準ユニットケアの体験が介護職員に及ぼす影響

指導　長田　久雄　教授

老年学研究科
老年学専攻
219J6002
長田　淳子

Master'sThesis（Abstract）
January 2020

Impact of semi-unit care experience in traditional welfare facility for the elderly on long-term care staff

Junko　Osada

218j6002

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J.F.Oberlin University

Thesis Supervisor: Hisao Osada

目次

序章……1

第１章　準ユニットケアについて
1.1　問題の所在 ……1

第２章　介護老人福祉施設の準ユニットケアに関わる先行研究の概要とケアの現状
2.1　準ユニットケアの定義 ……2
2.2　先行研究の概要 ……2
2.3　ユニット型施設の現状と課題 ……2
2.4　従来型施設の現状と課題 ……4
2.5　準ユニットケアの背景 ……5

第３章　研究
3.1　研究の目的 ……6
3.2　期待される成果　研究の意義 ……6

第４章　研究方法
4.1　調査対象 ……7
4.2　調査方法 ……7
4.3　準ユニットケア実施方法 ……8
4.4　分析方法 ……8
4.5　倫理的配慮 ……8

第５章　結果
5.1　分析対象者の属性 ……9
5.2　インタビュー時間 ……9
5.3　ストーリーライン ……9
5.4　カテゴリーと概念 …… 10

第６章　考察
6.1　入浴の考察　……15
6.2　食事の考察　……17
6.3　排泄の考察　……18
6.4　管理者の考察　……19
6.5　全体の考察　……19

第７章　結論
7.1　結論　……21
7.2　今後の課題　……22

謝辞

引用文献
参考文献
資料１～４
付録：分析ワークシート

特別養護老人ホームや介護老人保健施設など従来型入所施設では、多人数の利用者に対して、数名ずつチームを組みながら集団的にケアが行われることが多い。そこでは広いフロアに大勢の利用者が集められ、機能的かつ効率的にケアが提供されているため、一人ひとりの利用者にあったケアをすることは難しい。

介護保険制度施行後、従来型入所施設では、ユニットケアに移行して、「個別ケア」の実現を目指す施設が出てきた。ユニットケアとは、1 ユニットの利用者を 10 人程度の小単位に分け、共同生活を送り、個別的な関わりを重視するケアである（医療経済研究機構 2010）。

既存の施設でユニット化を推進するには、建築構造上区間変更が困難な所も多い。平成 18 年 4 月の介護報酬改定に伴い介護福祉施設の「準ユニットケア加算」が創設され、平成 24 年厚生労働省告示第 97 号 53 で、「準ユニットケア」の基準として示された。しかし従来型介護老人福祉施設では、準ユニットケアを実施している施設はまだ少数であり、実施している施設においても全スタッフが準ユニットケアを理解している訳ではない。個別性の高いケアの実施のためにはユニットケアの要素を持つ準ユニットケアは必要である。そこで本研究では、ユニットケアの要素を持つ準ユニットケアを従来型介護老人福祉施設で展開するために、準ユニットケアに取り組んだ介護職員の意識を探ることで、準ユニットケアの現状と課題を明らかにし、準ユニットケアが浸透し促進につながると考える。

対象者の概要は、今後準ユニットケアに取り組みたいと考えている従来型介護老人福祉施設 A 施設に勤務する管理者 1 名、介護職員 12 名であった。1 カ月間準ユニットケアを実施する。実施前後に、インタビューし、分析は、修正版グラウンデット・セオリー・アプローチを用い行った。以下に結果を示す。【　】はカテゴリーである。

調査の結果、実施前のインタビューでは、従来型施設の入浴は、【集団入浴の安心感】がある反面【その人らしい入浴の困難】である。食事については、【安全で楽しい食事の環境づくり】は出来るが、集団での食事で仲間が出来楽しい反面、全介助の利用者の介助をしていると、突然の動き出しなどに対応できず、目が行き届かない状況がある。排泄は、時間制限があり【定時誘導＋誘導による効率の良い排泄介助】をしているが、個別の排泄パターンに対応出来ていないため、トイレ誘導が間に合わず、失禁してしまうこともある。利用者に不快な思いをさせてしまうこともある。従来型ケア全体で見ると、集団での生活なので、【社会参加の欲求の満足】はあるが、その反面【集団による生活のしづらさ】があるが示された。

準ユニットケア実施後のインタビューでは、入浴は、個別入浴を実施したが、ゆったりと利用者のペースで入れたことにより【生活の継続への喜び】が感じられたが、【職員の負担が増えることによる利用者への影響】が見られた。排泄においては、【時間の制約の解放により利用者と向き合った排泄介助の実施】でき、利用者の排泄パターンに合わせた排泄介助が実施できたが、今後継続のためには、職員の人数の問題や建築上の限界があり【個別排泄継続のための工夫】が必要であることが示された。

管理者も従来型の【環境が作るネガティブな意識】があり、利用者の世代も変化してくることで、【世代に合った生活の継続性】が必要であると認識している。準ユニットケアの導入は、ユニットケアへの職員の反発や、建築構造上の限界があるため、導入しても従来型ケアに戻ってしまうことが多い。今回の準ユニットケアの体験が、介護職員の【個別ケアの意識向上のきっかけ】になると考えていることが示された。準ユニットケアを実施し全体で見ると、介護職員に【個別ケアの意識の向上】が見られたと考える。準ユニットケア実施のためには、【施設の一貫した姿勢】が必要不可欠である。施設主導で【ケア方法の統一】を行うことが重要である。そのためには、従来型介護老人福祉施設だからこそ【従来型施設におけるユニットケア教育の役割】を認識し、体験型の研修を取り入れていく必要があることが示された。

本研究より、従来型介護老人保健施設だからこそ、ユニットケア教育を学ぶ必要があり、個別ケアの理解が大切であることが示唆された。全てのユニットケアの要素を取り入れることは難しいが、出来るところから、部分的に取り入れていくことが必要と考える。費用の面からも、ハード面の改善には建築構造上の限界がある。ソフト面は、介護職員の個別ケアに対する理解と意識改革の必要性があると考える。今回のような準ユニットケアの体験型研修を取り入れることで、介護職員自ら個別ケアの必要性とユニットケア方法を学ぶことで、介護職員の【個別ケアの意識の向上】し、ユニットケアの要素を取り入れた準ユニットケアへの理解が深まったことで、【ケア方法の統一】が図られたと考える。しかし、従来型介護老人福祉施設でのユニットケアの要素を取り入れた、準ユニットケアを実現するためには、今回の取り組みで、ソフト面の様々工夫でハード面を補い、試行錯誤しながら従来型介護老人福祉施設による実施が、ユニットケアの効果が期待できる可能性が示唆された。よって従来型施設のような既存の施設において、個別性の高いケアを実施していくためには、準ユニットケアの導入は必要であり、【施設の一貫した姿勢】、【ケア方法の統一】、【従来型施設におけるユニットケア教育の役割】が重要であると考える。準ユニットケアの理解が進み、準ユニットケアの導入を促進する要因のひとつとなることが期待できると示唆された。

引用文献

1） 藤井有里「介護老人保健施設における利用者主体の個別ケアー介護教員の認識からー」『関西福祉科学大学紀要』14，176（2010）

2 ） 経済研究機構
「グループケア型施設の運営および施設サービスのあり方に関する調査研究報告書」
https://www.ihep.jp/wp-content/uploads/current/report/study/16/h21-6.pdf
（2010）（2022.1.16 アクセス）

3） 片桐 資津子「従来型特養と新型特養の比較研究ーグループのもつ力に着目してー」63 巻（2012-2013）1，70-73（2012）

4） 加藤悠介「高齢者施設における居場所づくりに関する環境行動学的研究」大阪市立大学大学院生活科学研究科，105（2007）

5） 川西千恵美，竹川由紀子，上野栄一，他「看護婦の充実感の勤労意欲への影響」富山医薬大医誌 10（1），66（1997）

6） 木下康仁：「ライブ講義 M-GTA：実践的質的研究法修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて」弘文堂，67（2007）

7 ） 厚生労働省社会保険審議会「施設居住系サービスについて」（2014）
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000044903.pdf （2022.1.16）

8 ） 厚生労働省（1999）「指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準 」（平成十一年厚生省令第三十九号）第五章 ユニット型指定介護老人福祉施設の基本方針並びに設備及び運営に関する基準 第三十八条， 第三十九条， 第四十条一， 第四十七条
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=82999406&dataType=0&pageNo=1
（2022.1.16）

9 ） 厚生労働省「今後５か年の高齢者保健福祉施策の方向～ゴールドプラン 21～」報道発表資料 9 （2017） http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1112/h1221-2_17.html
（2022.1.16）

10 ） 厚生労働省施設・居住系サービスについて 資料 4-2（社保審ー介護給付費分科会第 100 回（H26.4.28）23（2014）
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000044891.html，（2022.1.16）

11 ） 厚生労働省平成 18 年度介護報酬等の改定について（2006）
https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/10/dl/s1003-11h_0002.pdf （2022.1.16）

12 ） 厚生労働省介護老人福祉施設 参考資料２（参考資料社保審ー介護給付費分科会第 143 回（H29.7.19）23（2017）
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000- Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000171814.pdf （2022.1.16）

13 ） 厚生労働省介護老人福祉施設 参考資料２（社保審ー介護給付費分科会

第 144 回（H29.8.4）（介護保険法第 8 条 28 項）（2018）
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000174012.pdf （2022.1.16）
14） 厚生労働省「介護給付費実態統計」令和元年 10 月分
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450049&tstat=000001123535&cycle=1&year=20190&month=24101210&tclass1=000001123536&tclass2=000001128816
（2022.1.16）
15） 厚生労働省介護給付費等実態統計令和 2 年 5 月審査分 22
https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&query=%E5%8A%A0%E7%AE%97&layout=dataset&toukei=00450049&tstat=000001123535&metadata=1&data=1(2022.1.16)
16） 厚生労働省 2015 年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～
報告書 https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/kentou/15kourei/2.html
（2022.1.27）
17） 壬生尚美「ユニット型施設と従来型施設における入居者の従来型施設における生活意識に関する調査研究－特別養護老人ホーム入居者の生活意識構造に影響を及ぼす要因－」関西福祉科学大学専攻学紀要第 14 号，146（2010）
18） 壬生尚美「特別養護老人ホームのユニット型施設と従来型施設における入居者の生活意識－安心満足できる生活の場の検討－」人間福祉学研究 4 巻第 1 号，88（2011）
19） 壬生尚美「介護老人保健施設における従来型施設とユニット型施設のケアに関する実践課題－施設構造・ケア過程が入居者の生活に及ぼす影響－」関西福祉学専攻学位論文要旨，4-8（2015）
20） 櫻井成美「介護肯定感がもつ負担軽減効果」心理学研究 70（3），2 社会福祉法人大阪府社会福祉協議会　老人施設部会（2007）「特別養護老人ホームにおける『介護職員の業務に関する意識調査』報告書」（1999）
21） 橘弘志「特別養護老人ホーム入居者の施設空間に展開する生活行動の場－個室や型特別養護老人ホームの空間構成に関する研究　その 1－」日本建築学会計画系論文集　512，121（1998）
22） 外山義「介護保険施設 n における個室化とユニットケアに関する研究」医療経済研究 11，79（2002）
23） 上野千鶴子「ケアの社会学」太田出版，192,193,194,203（2011）
24） 柳原大介「従来型施設におけるグループケアの導入」『ふれあいケア』12（7），67-69（2006）
25） 山本則子，石垣和子，国吉，他「高齢者の家族における介護の肯定的意識と生活の質（QOL）生きがい感および介護継続意志との関連：続柄別検討」日本公衛誌 49（7），661（2002）

参考文献

掘田聡子，佐藤博樹（2005）「介護職のストレスと雇用管理のあり方：高齢者施を取り上げて」東京大学社会科学研究所，173-174

櫟尚美，田尾由起子，横尾美智子他（2014）「家族介護者の介護力構成要素と介護負担感との関連」福岡県立大学看護学研究紀要 11，2

久保真人（2007）「バーンアウト（燃え尽き症候群）ーヒューマンサービス職のストレスー」日本労働研究雑誌 588，1-2

久保真人（2014）「サービス業従事者における日本版バーンアウト尺度の因子的，構成概念妥当性」心理学研究 10，1-5

黒田研二，張允禎（2011）「特別養護老人ホームにおける介護職員の離職意向及び離職率に関する研究」社会問題研究 60，17

小川幸裕（2004）「対人援助従事者におけるバーンアウトの研究ーエピソード学習からー」帯広大谷短期大学紀要 41，1-2

種橋征子（2007）「個別ケアを阻害する要因に関する研究」『介護福祉学』14（1），46-65

橘弘志（2001）「特別養護老人ホームのケア環境と入居者の生活展開の比較－個室型特別養護老人ホームの空間構成に関する研究　その３－」日本建築学会計画系論文集 548，137- 143

橘弘志（2002）「特別養護老人ホーム共用空間におけるセミプライベート・セミパブリック領域の再考―個室型特別養護老人ホームの空間構成に関する研究　その 4－」日本建築学会計画系論文集 557，157-163

張允禎（2008）「特別養護老人ホームにおける介護業務・介護環境対する職員の意識に関する研究」大阪府立大学博士論文要旨，1-2

陶山啓子，河野理恵，河野保子（2004）「家族介護者の介護肯定感の形成に関する要因分析」老年社会科学 25（4），466-468

山崎さゆり（2013）「従来型施設における認知症高齢者の生活環境に関する事例考察」『日本建築学会大会学術講演梗概集 2013(建築計画)』，491-492